

近郊版

中央線下街道ルート説

政府議事録に記述なし

昔からの言い伝えは間違っていた。明治時代、現在の春日井市域を通る中央線の敷設をめぐり、「当初計画」では坂下町など下街道(現在の国道19号沿い)を通る予定だったが、住民反対で高蔵寺町を通る現在の路線になった」という定説が間違いの可能性が高いことが分かった。市教委文化財課副主幹の安田裕次さん(仮名)が一日発行の「郷土誌かすがい」で発表する。(小野沢健太)

きょう発行「郷土誌かすがい」で発表



当初計画されていたとされる中央線ルート

春日井市史など、春日井市の歴史を紹介する複数の文献によると、一八九三(明治二十六年)に国が発表した中央線の予定路線は現在の国道19号とほぼ同じで坂下町を通る路線だったと紹介。この路線案に養蚕が盛んだった坂下地区住民らが「桑の葉に汽車の煙のすが付いて、養蚕業に打撃がある」などと猛反対

春日井市史など、春日井市の歴史を紹介する複数の文献によると、一八九三(明治二十六年)に国が発表した中央線の予定路線は現在の国道19号とほぼ同じで坂下町を通る路線だったと紹介。この路線案に養蚕が盛んだった坂下地区住民らが「桑の葉に汽車の煙のすが付いて、養蚕業に打撃がある」などと猛反対

定説の住民反対なかった?

事録を確認すると、政府側は最初から現在の路線案を提示しており、下街道ルートの提案はなかった。同会議で現在の路線が採決され、同三年に中央線は開通した。

なぜ、住民反対説が浮上したのかは不明。ただ、調査に際して坂下地区周辺のお年寄りを中心に聞き取り調査を実施したところ、ほとんど全員が住民反対・移転説を信じていたという。

安田さんは「住民反対の存在を不具体的な文書がいくら探しても出てこないの、口伝えの伝承で事実と異なっている可能性が高い。今回の論文を問題提起として、真偽を確かめる議論が活発になればいいと思う」と話している。